

算数・数学①

自ら課題に向かう導入場面を考えるときには、
☑単元・領域のストーリー（系統性）の中から
本時の役割をとらえ、

☑子どもの実態にあった支援方法を考えましょう！



実践例 小学校 6年「比例と反比例」①自ら課題に向かう

本時の役割は？

第6時
2本の比例のグラフ
から読み取る

（本時）

前時から引き続き
グラフを扱う。
・ただ値を読み取るだけ
でなく、読み取った値
の意味を、具体的な場
面と結び付けて考える
必要がある。

（中1）

・比例、反比例を関数
としてとらえ直す。
・関数関係を見い出
し、考察して表現す
る。

（小5）

・比例の性質、式
やグラフの特徴
を学んできた。

子どもの実態は？

グラフから値を読み取ることができないと、
本時のねらいに向かえない。

グラフの(x, y)の値について、
どちらか一方からもう一方を見つけることができるか。

あなたのクラスは、どのパターン？

おおよその児童ができている

多くの児童ができていない

理解の差が大きい

導入

追究

終末

短時間で導入す
ることで、①②
③の答えを見つ
けるだけでなく、②③の共通
点や相違点まで
せまろう。

導入

追究

終末

どちらか一方か
ら、もう一方を
見つける方法
を全体で確認し
てから、本時の
問題に入ろう。

導入

追究

終末

全体で復習をす
るのではなく、
苦手な子に、個
別に対応できる
環境設定をしよ
う。

実態にあった導入を考えましょう！

追究、交流の時間が長くなる
ことで、自分の学びを見つめ、
修正したり、深めたりする時間
を確保することができます。

前時までには習得しきれていな
い内容を復習することで、本時
の学びにスムーズに入ることが
できるようになります。

個別の支援を優先した環境設
定をすることで、どの子も主体
的に学び進める支援をするこ
とができます。

